

男性社員育休全員取得へ!!

—日本生命—

日本生命保険相互会社は、**子どもが生まれた男性社員全員に1週間程度の育休**を取得させる取り組みを始めています。

これは働き方を変え、女性の活躍を推進するうえで男性の育児参加を促すのが狙いで、当初1%程度だった取得率がたった4ヵ月で36%までに伸びました。

ただ社員に推奨するのではなく、誰が休んでも業務がきちんと成立する体制づくりや、コミュニケーション能力が上がるなどのメリットを提示し、職場のバックアップ体制も充実しています。

この例が、他の会社に伝わり、みんなの働き方が変わっていくといいね!



安倍政権の成長戦略では...

「女性の活躍推進」を柱の一つとして掲げており、2020年までに「男性の育休取得率」を13%にすることを目標としています。

育児休業給付

休業前賃金の**67%の引き上げ検討中**

厚生労働省は、育休中の所得を補う「育児休業給付」について、現在の50%から、**最初の半年間は67%に引き上げる**方向で調整に入りました。



〈家族と地域の時間づくり推進事業〉

平成25年10月11日(金)～10月14日(月・祝)実施

大人と子どもの休みのマッチングを行う「家族の時間づくりプロジェクト」。今回は3年に1度の島田大祭帯まつりにあわせて開催され、市内各所、賑やかな4日間になりました。会場は、たくさん親子の笑顔であふれていました。



つどいの広場番生寺きしゃぽっぽ(番生寺会館)



キッズSLフェスタ(新金谷駅プラザロコ)

編集後記

長女が生後1ヵ月のときに島田市に引越してきました。

引越した当初実家のある市へ帰りたくて仕方がなかったのですが、あれから約7年、すっかり落ち着いて今は島田市民を満喫中です。そんな風に変わったのは、夫をはじめ、子育てをしている最中に会ったお母さん仲間や地域の諸先輩の方々のおかげです。子育てを応援してくれる広場や講座をたくさん利用させてもらって、育児のピークを乗り越えることもできました。

今ではそれらを少しお手伝いする立場にもなりました。他市他県から新しい土地へ来た子育て世代の方々が不安なくこの島田で暮らし、ここで子どもを育てることができてよかったと、同じ思いをもってもらえるような事に関わってみたいです。

(蛭田)



編集：島田市男女共同参画啓発推進員 / 小澤康恵・杉本章子・園部真由美・高杉陽子・蛭田ひとみ
事務局：島田市市民安心課 ☎：36-7121 FAX：35-6000 E-mail：anshin@city.shimada.shizuoka.jp



島田市男女共同参画啓発学習紙



メニュー

- P.1 家族の幸せを求めた「ワーク・ライフ・バランス」
- P.2~3 男性の育児休業取得率アップへの道!
- P.4 男性社員育休全員取得へほか



2014年1月15日発行

島田の育休取得パパ

家族の幸せを求めた “ワーク・ライフ・バランス”

中村さんの生い立ち

「幼い頃、伊豆の民宿を営む実家で家事や掃除の手伝いを経験していました。島田市民病院の最初の配属先は小児科。妻も看護師として勤務しています。実家が遠いので、結婚前から共働きしながらの育児について考えていました。」

上司や周囲の理解があってこそ実現

「職場では男性の育児休暇取得の前例がなく、躊躇しましたが、生まれた子どもが二人とも喘息だったため、中村家にとって大切な時期・時間と判断し申請しました。妻や自分の上司や同僚の理解で長期の育休取得ができました。妻にとってもありがたい支えとなりました。」



なかむらいつか
中村逸佳さん(31歳・元島田)
プロフィール
職業:看護師(市立島田市民病院)
家族構成:妻、長女(5歳)、長男(3歳)の4人家族
育休取得歴:長女誕生後1年、長男誕生後1年3ヵ月、現在、時短勤務中。

中村家の「大黒柱」とは?

「“男は一家の大黒柱”と言われるけれど、我が家にとっては働く妻と子どものために時間をつくり、家族を守ることが“大黒柱”の役割。実際家事も試してみ、仕事だけするのがどんなに楽か分かりました。仕事から帰って食事の準備をしている女性を尊敬します。」と中村さん。



育休取得が“家族の幸せ”につながっているね。周囲の理解もあってワーク・ライフ・バランスが実現出来ているね!

働き続けたい妻と育児や家事に積極的に取り組む夫は、育児休業を活用し「中村家の幸せ」を築いています。

